

集落のリデザインワークショップ(ルアンパバーン)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2024年03月04日 ~2024年03月12日	ラオス	スパーヌウォン大学 ラオス国立大学	・建築学科、 環境システム学科 ・学部1年生、学部2年生、学 部3年生、学部4年生、 修士1年生、修士2年生	(芝浦工業大学) 学生11名、学生バイト2名、 教員1名 (スパーヌウォン大学) 学生21名、教員5名 (ラオス国立大学) 学生2名、教員2名	清水 郁郎(建築学科)



竹パネルを屋根に葺く

ラオスが誇る世界遺産都市ルアンパバーンとその郊外で、以下のふたつのワークショップを実施した。①14世紀に設立したランサン王国の旧王都ルアンパバーンでは、ユネスコによる保存事業のもとで伝統的建築やコロンIAL様式の建築物が手厚く保存されており、旧王宮が転用された国立博物館、世界遺産のスヴァナキリ寺、シェントーン寺、マイ寺等を訪問して保存修復の実際を研修した。また、最初のコロンIAL様式住宅と100年以上前の古民家を訪問し、多様な建築文化のあり方を研修した。②続いて、ルアンパバーンから100キロ北上したルー族の村で、伝統的民家の改修作業を行なうワークショップを実施した。ラオスの地方農村の自立と発展を目標とする、村全体をエコミュージアムに作り変えるプロジェクトの一環であり、改修した民家はテキスタイル制作のワークショップ施設に加えて、観光客用のゲストハウスとしても運営される予定である。3日間の作業では、屋根勾配を伝統的な形式に作り変えるために屋根の架け替え、竹パネル葺き、破風飾りの制作と取り付け等の大規模な造作に参加し、暑熱の中、現地の大工や学生とよく協働し、成果を上げることができた。この一連の作業を通じて、木造建築の建設プロセスや構造、構法の詳細に触れ、また、結いによる協働の建設や民家改修をめぐる伝統的儀礼への参加を通して、人々と建築を取り巻く複雑な文化の深淵に分け入ることができた。他に、民族文化博物館、モン族の村における地床式住居の実測や3Dスキャン、ドローン撮影等を行った。さらに、伝統的な生業である綿織物の工房、メコン川を挟んだ対岸の土器造りの村を訪問し、かつての朝貢関係や新しい技術の導入で村落がどのように変わったのかを研修した。



シェントーン寺でスケッチ大会



改修前の準備



屋根の付け替え



破風板の作成



改修後の記念撮影



モン族の村訪問